

育てる ～新卒採用の対象拡大～



CHAPTER

3

育てる

社会福祉法人 来夢

資格は必須条件ではない

採用ターゲットの新規開拓

少ないパイを奪い合う
既存の採用軸からの脱却

保育士不足が叫ばれ、経験層の募集だけでなく、新卒の有資格者採用も年々厳しさを増す中、『保育士という少ないパイを奪い合う採用から抜け出した』と新しい挑戦に乗り出したのは、兵庫県尼崎市で3園を運営する社会福祉法人来夢。同法人では、養成校出身者に限らず、広く新卒採用を行っている。「採用時点では、資格の有無は重視していません」と事務局長の竹田氏は語る。「保育の理

論等の知識はあるに越したことはありませんが、一番大切なのは、コミュニケーション能力だと考えています。保育の勉強をしてきても、そうでなくても、入職したら分からないことがあるのは当たり前。例えば、そんな時に、分からないことは分からないと、きちんとコミュニケーションをとってくれる方が安心して任せられますよね。あとは、価値観も重要なポイント。当園のやさしさ保育に共感をしてくれる方を積極的に採用しています」

養成校出身以外の学生
どう出会い、どう採用する

従来の養成校に求人票を送って、実習生に声をかけて、という採用ルートとは全く異なる一般学生からの採用。いったいどう進めているのか。同法人では、昨年より、一般学生向けの合同就職説明会に参加している。2020年にはWEBイベントから41名のエントリーを獲得、その後、14名が見学へ、8名が保育体験に参加した。選考に進むためには、見学・保育体験のステップを必須に

インタビューを受けた人

社会福祉法人 来夢
事務長

竹田 秀明

Takeda Hideaki

社会福祉法人来夢の事務長として経営を支え、とまつゆうゆう保育園の開園にも尽力。既存の採用方針に捉われず、新たな採用手法にも積極的に挑戦している。

しており、ミスマッチを防いだり、現場で学生の人となりやコミュニケーション能力を確認したりする機会を設けている。その年の選考には、実際に6名の一般学生が参加し、3名が内定に。「全くの手探り状態でしたが、成果は予想以上でした。大学への進学時に保育の道に進もうか迷った学生や、在学中に保育に興味を持つ学生の存在を実感し、この方針は間違っていないのかなと感じています」と竹田氏は言う。

資格取得支援前提の採用
確立と新たな挑戦へ

今年、新卒で入職した職員の1人、千足さんは、保育士試験の受験に向けて現



○保育士候補者

千足 優津葉

Chisoku Yuzuha

一般の大学を卒業し、新卒で社会福祉法人来夢に入職。同法人の保育士育成プランを活用し、ココキャリア・アカデミーで保育士資格の取得を目指して勉強中。

SOCIAL WELFARE CORPORATION RAIMU
社会福祉法人 来夢

CORPORATE PROFILE

社会福祉法人 来夢

取材園：いまふくゆうゆうこども園

兵庫県尼崎市今福 1-2-23

法人設立年月：2009年2月

ホームページ：https://raimu21.or.jp/

「保育士にとって一番働きやすい環境でありたい」という思いからユニークな休暇制度や多彩な研修制度を備える。2021年卒採用からは保育士育成プランを導入。

在勉強中だ。ココキャリア・アカデミーの講座をオンラインで受講している。オンラインでありながらも、双方方向の授業で質問できる体制や、進捗や出席状況が分かる報告書などのサポート体制は、受講者にとっても支援する法人にとっても安心につながっているという。「今後も既存の採用軸に捉われない新卒採用を続けていきたいですね」と語る竹田氏は、資格の有無にとどまらず、国籍にも捉われない、留学生への資格取得支援も視野に入れていた。